

働く千カラ ★ さっぽろ流

Vol. 3

つらいとき、一歩踏み出す勇気が
自信につながる



なかがわ じゅんいち
中川 純一さん

PROFILE
大学を卒業し、パソコンのプログラム制作会社にて勤務後、今年7月から岡本印刷(株)に入社。札幌市出身。26歳。

「超就職氷河期」といわれる昨今。就職先を道外に求める人もいる中、札幌で働くことを選び、生き生きと仕事をしている若者がいます。このシリーズではそんな元気な若者にインタビュー。札幌で働く理由や仕事に対する思いを語ってもらいます。

— 大学卒業後、一度就職されているんですね。
はい。大学でパソコンのプログラムを学び、市外のプログラム制作会社に就職したのですが、会社の都合で、1年ほどで辞めることになってしまいました。実家のある札幌で、再び就職活動を始めました。
— あらためて始めた就職活動はどうでした？
愛着のある札幌で仕事に就きたいと思い、プログラマーを中心に探したのですが、既卒で実務経験も短いためか、まったく決まらず……。もともと応募書類作りが苦手で、書類選考で落とされる日々が1年以上続きました。不安と焦りでいっぱいでした。
— そのときに市の制度を利用したのですか。
はい。広報さっぽろで、応募書類の作成やビジネススキルを学べる「ジョブチャレンジプログラム」を見つけたんです。就職セミナーの参加経験が無く、不安もありましたが、思い切って応募しました。
— 実際に参加してみてどうでしたか？
約1カ月、講義やグループワーク、人前で話す訓練などをみっちり受けました。その中に応募書類の添削があったのですが、自己PRの足りない部分などがよく分かって、受講後は書類選考で落とされる

ことが歴然と減りましたよ。その他にカウンセリングも受けて、自分の特性や本当にやりたい仕事も見えてきました。
— その結果、今の印刷会社に応募し、就職できたのですか？
はい。デザインなどに興味があつて、それを生かせる印刷業界に入ることができました。今は、パソコンで名刺やチラシの文字修正を行うのが業務ですが、今後はレイアウトなどのスキルを身に付けて、お客様に「いいね」と言ってもらえるものを作りたいですね。
— 最後に就職活動中の若者へメッセージをお願いします。
就職が決まらず、自信を無くしがちな時期こそ、就職支援の講座や研修などの情報を集め、参加してみることが大切だと思いました。つらいときに勇気を持って一歩踏み出すことが、就職だけでなく、その後働いていく上での、自信にもつながってくると思います。



文字の打ち間違いは許されないで、作業中は気を張ります、と話す中川さん

中川さんが活用した支援制度

ジョブチャレンジプログラム

おおむね35歳未満の求職者を対象に行う、就職支援のための講義とグループワークを中心とした研修です。自己分析や応募書類の作成を学ぶほか、チームで働く力を養成します。今回は1月下旬から開催。応募方法などは本誌1月号「札幌市からのお知らせ」、またはホームページをご覧ください。

問い合わせ先 人材育成担当 ☎211-2368
ホームページ www.jobchallenge.jp

社会人としての基礎力も育成

研修を通じ、就職のための支援はもちろん、社会人としての基礎力の育成も行います。親身にサポートしますので、ぜひご利用ください。

人材育成担当 かきうち あやこ 垣内 綾子さん

